

平成28年6月13日

美里町議会

議長 吉田真悦 殿

総務、産業、建設常任委員会

委員長 我妻 薫

総務、産業、建設常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、委員会規則第22条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 平成28年4月28日(木)
2. 調査視察地 美里町内
3. 参加委員 我妻 薫、 山岸三男、 千葉一男、 藤田洋一
櫻井功紀、 鈴木宏通、 前原吉宏
4. 随員 佐藤俊幸
5. 調査事項 農商工連携による活性化の調査
(事業概要の聞き取り、意見交換)

所管事務調査報告

「目的」

町の産業活性化にむけて農業、商業、工業との連携（農商工連携）が重要であるとの観点から、今後の議論を深めるためにも、町内の主な生産者（団体）の現状を把握するため下記4箇所の視察と意見交換を行う。

JAみどりの北浦梨部会、 カネサオーガニック味噌工房
合名会社 川敬商店、 ハニーローズなんごう

「概要」

視察及び意見聴取の概要について、委員の感想を含めて以下のとおりまとめる。

JAみどりの北浦梨部会

- ・北浦地区で生産される梨であって、「北浦ナシ」というブランドはない。
- ・共選出荷ではなく、各自の販売形態を取り、店頭販売を主眼にしている。
- ・高齢化と後継者不足が課題である。
- ・若い人からは果樹農園、観光果樹園などへの関心が示された。このことは、今後につながりを感じられる。
- ・6次産業化を進めてきた町と生産者との温度差も感じられる。

カネサオーガニック味噌工房

- ・商品の開発意欲と販売意欲が強く感じられる。
- ・稲作、大豆、シイタケ、野菜の有機栽培と加工部門との連携が素晴らしいが、規模の拡大によってもその良さが守られるかどうかの心配もある。
- ・地元より都市部に目が向いているのは経営上やむを得ないが、地元における連携も課題。

合名会社 川敬商店

- ・吟醸酒で12年間金賞を受賞しており、全国的には売り上げが伸びている。
- ・地元での売り上げが減っていることから、地元における各種連携が課題。
- ・地元産米を使った「夏吟醸」などといった新しい挑戦が期待される。

ハニーローズなんごう

- ・年間130万株の生産を誇るが、京浜を主に仙台、北海道、八戸等を含めて9割は市場出荷である。自家売りは1割に満たない。
- ・生花、切り花の生産で手がいっぱいとのことで、他の取り組みへの余力は厳し

い状況。宮城大学学生からの提案にも消極的。

- ・バラ園の造成については管理を委託できる状況にはないが、バラフェスティバルの定着で遠くからも集客ができています。町花でもあるバラによるイメージアップにも連携は欠かせない。